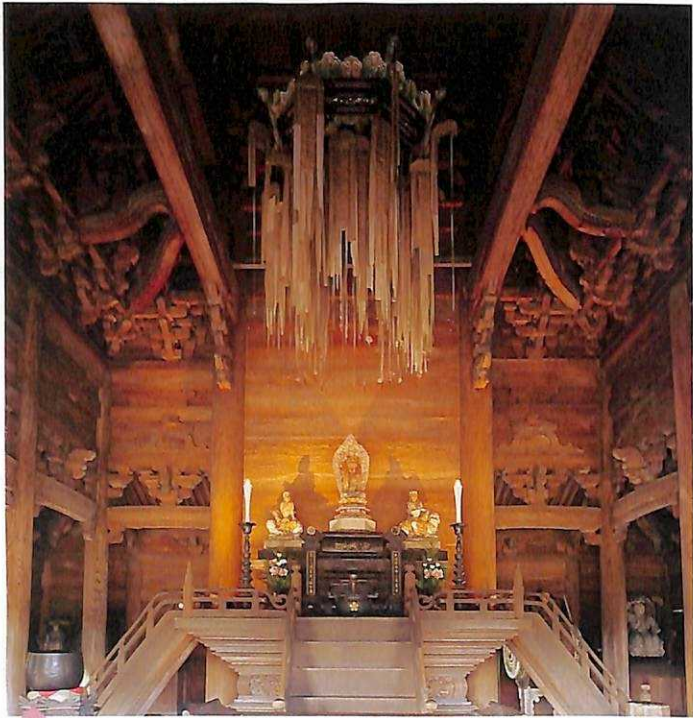




仏殿

仏殿 (国宝)

Butsuden (National treasure)

万治二年(1659)に建立された。

山上善右衛門嘉広の最も心血を注いだ力作の一つで、総檜造りである。屋根は鉛板をもって葺かれている。これは全国においても金沢城石川門にその例をみただけである。上層軒組は、禅宗建築の純粹な形式であり、屋根裏の扇垂木やエド虹梁など複雑にして妙をえた架構法である。

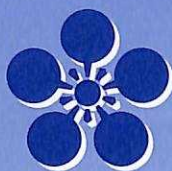
御本尊として中国明代の釈迦・文殊・普賢の三尊まつる。

NATIONAL TREASURE ZUIRYUJI

Zuiiryuji temple belongs to the Soto sect (Zen sect) of the Japanese Buddhism.

This temple was built by Toshitsune Maeda 360 years ago, and it is consisted of 7 buildings, which is thought to be like a human body. Sanmon, Butsuden and Hatto have been designated as National Treasures.

Butsuden especially shows a great Zen style of building; the technique of architecture and carvings are easily recognized for their high quality. Besides this roof was made of lead, which is quite rare in Japan. It was thought that the roof could be used for the bullets in case of war, and that the temple could be used for protection instead of the castle.



国宝

高岡山瑞龍寺



高岡山瑞龍寺

〒933-0863 富山県高岡市関本町35
TEL (0766) 22-0179 FAX (0766) 26-6978
HOME PAGE <http://www.zuiiryuji.jp/>



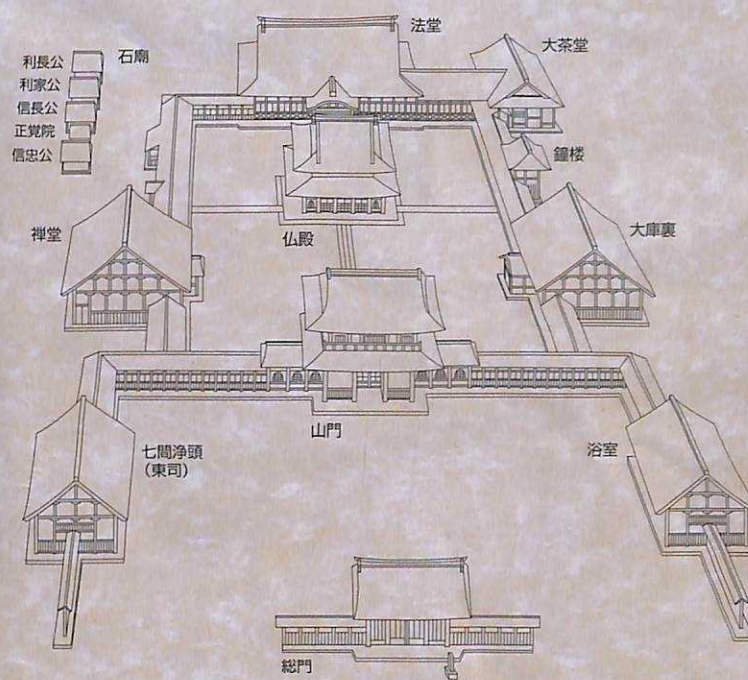
伽藍及び建造物

Garan & Building

伽藍は、鎌倉時代広く我国にもたらされた中国の寺院建築を模して建立されたもので、総門・山門・仏殿・法堂を一直線に配列し、左右に禅堂と大庫裏を置き、加えて四周を回廊で結ぶなど、厳肅且つ整然たる伽藍構成である。

名匠山上善右衛門嘉広は、利長公の代より前田家の信任厚く、禅宗様建築を良くし、近世工匠の中でも一流の域に達した名工の一人であった。なお善右衛門はこの瑞龍寺の他に、能州滝谷の妙成寺、加州那谷寺の諸堂、越中大岩日石寺、能州一の宮気多大社、加州小松の天満宮等、多くの建築を命ぜられた。

瑞龍寺復元図 (創建当初)



■ 総門 (重要文化財)

Somon

(Important cultural properties)

正面三間の薬医門形式で正保年間の建立である。



総門

■ 石廟 (県指定文化財)

Sekibyō

(Prefecture designated cultural properties)

前田利長、利家、織田信長、同室正覚院、織田信忠の分骨廟。石廟の中には、宝篋院塔がまつられている。



石廟

■ 禅堂 (重要文化財)

Zendo

(Important cultural properties)

坐禅修行をする建物であるが、坐禅だけではなく、食事、睡眠もとれる生活空間である。延享三年に焼失、直ちに再建された。幕末に三分の一に縮小され、今回の修理で再び創建当初の姿に復元された。



禅堂



鳥懸沙摩明王像

山門 (国宝)

Sanmon (National treasure)

正保二年(1645)に建立され万治年間に場所を変えて建直す。延享三年(1746)火災で焼失、現在の建物は文政三年(1820)に竣工した。当時としてはめずらしく和算により設計されている。

左右に金剛力士像を安置し、楼上には釈迦如来、十六羅漢をまつる。



山門

法堂 (国宝)

Hatto (National treasure)

明暦年間(1655~1657)の竣工に成る。建坪186坪。

境内第一の大建築、総檜造りとなっている。構造は方丈建築に書院建築を加味したもので、六室より成っている。中央奥の内陣には二代藩主前田利長の御位牌が安置されている。法名は「瑞龍院殿聖山英賢大居士」。中央二室の格天井には狩野安信の四季の百花草が描かれており、正面内陣の欄間には高岡という地名の由来となった鳳凰が刻まれている。

法堂

沿革

History

曹洞宗高岡山瑞龍寺は、加賀二代藩主前田利長公の菩提をとむらうため三代藩主利常公によって建立された寺である。

利長公は高岡に築城し、この地で亡くなった。加賀百万石を譲られた義弟利常は、深くその恩を感じ、時の名匠山上善右衛門嘉広をして七堂伽藍を完備し、広山恕陽禅師をもって開山とされた。

造営は正保年間から、利長公の五十回忌の寛文三年(1663)までの約二十年の歳月を要した。当時、寺域は3万6千坪、周囲に壕をめぐらし、まさに城郭の姿を想わせるものがあった。

平成9年12月3日、山門、仏殿、法堂が国宝に指定された。また、総門、禅堂、大庫裏、回廊、大茶堂が国の重要文化財に指定されており、江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されている。



大庫裏

■ 大庫裏 (重要文化財)

Oguri

(Important cultural properties)

調理配膳や寺務運営を行う堂である。天井が漆喰で曲線になり結露に配慮してある。正面には草駄天尊像がまつられている。



■ 大茶堂 (重要文化財)

Daisado (Important cultural properties)

創建当初に造られたもので、その存在は全国的に類例は少ない。その構造は外壁や軒下を土蔵と同じ大壁とし、内部を土天井とした大変珍しい防火建築物である。